

大学の世界展開力強化事業
(2019年度採択)
2022年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

2022年12月28日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2019年度に採択された3件のプログラムについて、(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望、(2) 特記すべき成果、(3) 交流学生数の実績等、(4) 日-EU共同学位プログラムの構築数、(5) 任意指標(設定した事業のみ)の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績(派遣・受入学生数)等を調査票によりフォローアップの上、整理した。

事業3年目となり、部分的に新型コロナウイルス感染症の影響による渡航・入国制限が解除されつつある中で、実渡航及びオンラインを併用したハイブリッド型にて長期交流を含めた交流を実現し、成果の達成に向けて努力していることが見受けられた。事業全体の交流学生数については、派遣人数はやや落ち込んでいるものの、受入人数については順調に伸び目標値を上回っていることから、支援開始4年目以降も取組内容を充実させ、成果を挙げていくことが期待される。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

東京外国語大学

2021年6月に日欧共催のオープンレクチャーを開催したほか、同年10月から12月に「公共圏における歴史」に関連するオンライン及び対面での公開講座等を開催した。一部オンライン講義については、本学公式YouTubeチャンネルで録画を公開する等成果の普及に努め、外部評価委員会においても、高い評価を得ている。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

2019年度に設置した欧州側3大学とのコンソーシアム運営組織において、コンソーシアム形態での大学間協力を推進しており、コロナ禍においても、オンラインを活用しながら、定期的にAcademic Management Board (AMB) 及びQuality Assurance Board (QAB) を開催して、プログラムの運営を行っている。

慶應義塾大学<交流推進部分>

2021年度中にEU3大学との合同マネージメント会議を3回実施し、カリキュラムの実施状況、JEMARO学生との情報共有等、プログラムの運営に関する協議を行い連携強化を図った。また、慶應義塾大学側指導教員による会議は毎月実施し、オンライン指導の進捗、課題の共有、教育環境の整備を行った。2022年1月末に実施された課題研究発表会にて一定の教育の成果を確認することができた。

慶應義塾大学<プラットフォーム構築部分>

「日-EU国際共同学位プログラムの質保証について」をテーマに、大学の世界展開力強化事業日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウムを実施し、日本やEU諸国を含む世界各地から多数が参加した。欧州委員会教育文化総局(EACEA)から欧州における質保証の動向紹介、文部科学省より2022年施行のJDに関わる制度改革の紹介があり、国際共同学位の質保証について活発な議論を行った。

(2) 特記すべき成果

東京外国語大学

- ・ 受入学生の渡航に向け、個別に柔軟かつ緊密な情報共有と指導を行うことで、来日を予定していた学生14名全員について、2021年3月から2022年6月までの間に、渡航による受入を実現した。
- ・ オンラインによる定期的なコンソーシアム会議の開催により、その時々懸案事項のほか、中長期的な構想についても話し合わせ、持続可能な国際共同教育の基盤を築くことができた。
- ・ アソシエート・パートナー校であるフランス国立東洋言語文化大学 (INALCO) に第4セメスターを通じて滞在したいという学生からの希望を受け、大学間での協議を進めるとともに、コンソーシアムにも働きかけを行い、これを実現した。
- ・ オンラインで2021年7月に開催した1期生による修士論文の中間発表会に、全提携校から20人を超える教員が参加し、大学間で学生指導についての共通認識を確立することができた。
- ・ 大学間の連携のみならず、各国大使館や航空会社等から入念に情報収集を行い、全DD学生がオリエンテーションから実渡航でプログラムに参加することができた。
- ・ 渡航手続きや日本での滞在についての学生からの質問を受け、個別に対応を行うと同時に、事業ウェブサイト（英語版）の Q&A を大幅に拡充した。
- ・ 入学手続きのオンライン化、書類記載事項の簡略化等、学生の負担軽減や業務の効率化を実現した。
- ・ 2期生募集に際し、1期生の体験談を聞く機会を設け、応募希望者がプログラムについての具体的なイメージを養うことができた。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

- ・ 日欧6大学、企業パートナー8社でのコンソーシアム体制を構築している。日欧大学の代表者から構成するコンソーシアム内の2つの組織 (AMB: Academic Management Board及びQAB: Quality Assurance Board) を設置し、プログラムの質保証の仕組みを取り入れた共同事業運営を行う体制を構築している。
- ・ 欧州側の複数大学との連携を通じ、欧州エラスムスプログラムに準拠した共同募集/共同選考、教育カリキュラム共同実施、共同指導、教員相互派遣、質保証等を通じ、大学院教育における国際通用性の促進、教育のグローバル化が図られている。
- ・ 本プログラムは、日本側と欧州の大学3大学が授与する複数学位 (マルチプルディグリー) の取得が可能となるプログラムで、各大学が強みを持つ教育を受けることができる。また、多様な出身国からの学生が参加するプログラムとなっている。
- ・ EU側大学では、学生中心 (Student-Centered) 教育・学修の考えが一般化しており、本プログラムにおいても、教育内容、学生サービス等に関する学生からの意見をプログラム改善に繋げる仕組みを取り入れている。プログラムの質の保証の基準においても、学生中心の教育・学修・評価を行う観点を取り入れている。

(2) 特記すべき成果

慶應義塾大学 <交流推進部分>

- ・2022年3月に3期生のセレクションを行った。志願者数は873名（日本人学生3名を含む）であった。前年度よりも約350名の志願者増となっている。プログラムのアドミッションポリシーに照らし連携大学合同で入試選抜にあたっており、より効果的な選抜ができるよう工夫を行っている。前年度の入試においてMotivation letterの評価における曖昧性が課題としてあげられたため、2021年7月、11月の合同マネジメント会議にて協議を重ね、新たに統一のフォーマットを用意し、必要要素がもれなく網羅される形式とし、比較評価しやすいよう改善を図った。Evaluation Guidanceを作成し、評価者間の評点差異を最小限にする改善も行った。
- ・1年前にYouTubeの慶應義塾大学チャンネルに掲載されているJEMARO紹介動画の視聴者数が2022年6月28日時点で英語版（7,728回）、日本語版（4,814回）となっており、本プログラムへ多くの関心が寄せられていると判断している。
- ・本来2021年9月より来日予定であった1期生に対して、EU側・日本側の教員による共同指導体制の利点を生かし、実験・研究等の多い理工系のプログラムにおいても、遠隔での指導を可能なものとした。

慶應義塾大学<プラットフォーム構築部分>

2022年3月10日に「日-EU国際共同学位プログラムの質保証について」をテーマに、大学の世界展開力強化事業日-EU戦略的高等教育連携支援プラットフォーム構築事業シンポジウムを開催した。EACEA（欧州委員会教育文化総局）のDavid Crosier氏による欧州における質保証の最新の動向や国際共同学位プログラムの特徴の紹介により、共同学位の本質を捉えた活発な議論が交わされた。

以下は、参加者アンケートの抜粋であるが、日欧の相互理解、今後の共同学位プログラムの設計に向けた理解を深める機会となった等、反響が大きかった。

「情報やコメントの質が高く、共同学位プログラムの価値と課題がよく理解できた。」

「共同学位に関する、ヨーロッパの現在の状況が良くわかった。文科省からの情報提供もよかった。」

「共同プログラムでは先にカリキュラムの特徴に注目してしまうが、今回のシンポジウムでもっと質保証についての認識を持つべきということがわかった。JDが構成大学間で育成したい人材像・カリキュラム・質保証等多くの協議を必要とし、大変だが、最も魅力的だと感じた。」

「質保証を主たるテーマとしたシンポジウムは少ないので、今後もEUの動向とともにこのようなシンポジウム・パネルディスカッションの開催を期待したい。」

(3) 交流学生数の実績等

①派遣の進捗状況

東京外国語大学

COVID-19の対策として学生への指導と関係各所への情報収集を綿密に行い、2021年度参加学生3名を中央ヨーロッパ大学へ、2020年度より参加の1名をフィレンツェ大学へ、いずれも9月から派遣することができた。参加を検討している学生に対しては、プログラム・コーディネーターが個別相談に応じる機会を設けている。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

豊橋技術科学大学におけるコロナ禍での活動基準により、海外研修・留学は、原則、外務省感染症危険情報が「レベル1」又は同情報が発出されていない国への渡航であることが条件とされていたが、2021年4月に基準を見直し、外務省感染症危険情報レベルが2又は3であっても、学位プログラムに係る留学を目的とした渡航等、修学上やむを得ない事情がある際は、渡航前の確認・準備等を行うことを前提に、渡航を可とすることができるようにした。このため、2021年度の派遣については、予定通り実施することができた。

慶應義塾大学 <交流推進部分>

日本人応募者を多く得るためにJEMAROに関する情報発信を積極的に行っている。様々な留学プログラムを紹介するパンフレットにおいて、当プログラムの紹介を行い、一年を通じて、相談受付を行っている。2021年11月から2022年1月には3期生の公募説明会を複数回実施した。プログラム担当教職員が紹介するのみならず、欧州に留学中の2期生とオンラインでつないで対話をする形の説明会を新たに企画し、より多くの学生に選択肢として検討する機会を提供することができた。

②受入の進捗状況

東京外国語大学

2022年2月から1期生4名と2期生10名の受入をオンラインで開始し、うち5名については3月に入ってから渡航を果たすことができた。年度を通じて、学生の学修面・精神面のケアと情報収集を行い、学生が学修に注力できるよう、日本における諸手続き等の支援と負担軽減に努めた。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

欧州側学生の受入れについては、継続的に多くの志願者があり、目標を上回るプログラム履修者の獲得ができています。

慶應義塾大学<交流推進部分>

2期生についてはEU側525名の応募、3期生についてはEU側870名の応募があった。これは、各方面における広報の成果が得られたものと考えている。人数のみならず、該当分野は国内では女性比率は低い傾向にあるが、JEMAROでは女性応募者比率が17%と高く、応募者の出身国も77の国・地域に及んでおり、世界的に広く認知された公募プログラムとしてスタートができています。

(4) 日-EU共同学位プログラムの構築数

東京外国語大学

オンラインにより2~3ヶ月毎にコンソーシアム会議を開催する体制が確立されたことにより、共同学位プログラムの構築が進展した。2022年度7月には、渡航による教員の往来の再開も決定している。JD化についても、中央ヨーロッパ大学と調整を開始した。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

日欧6大学及び連携企業でのコンソーシアム体制を構築し、日欧大学の代表者から構成するコンソーシアム内の2つの組織（AMB：Academic Management Board及びQAB：Quality Assurance Board）を設置し、プログラムの質保証の仕組みを取り入れた共同事業運営を行っている。

慶應義塾大学<交流推進部分>

「EU-日本国際共同学位情報交換会」をオンラインで開催し、欧州フランス、イタリア、ポーランド、ドイツ、ルーマニアの6大学、日本3大学の関係者が議論を行った。国際共同学位の認証評価（Accreditation）への取組について紹介し、ジョイント・ディグリー設置に向け効果的に相互理解を深めることができた。

(5) 任意指標 (設定した事業のみ)

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

本事業以外にもEU圏との交流事業があり、継続して学生をEU圏に派遣するプログラムを有している。

(単位：人)

	2019年度	2020年度	2021年度
(指標1) EU留学生数	23	17	12
(指標2) EUへの派遣学生数	31	12	13
(指標3) EUからの教員受入数	5	2	0
(指標4) EUへの職員派遣数/ EUからの職員受入数	7/2	0/0	0/0
(指標5) 協力企業関係者数	8	8	8

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2019年度採択)

(単位:人)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	派遣人数	
			目標 (計)	実績 (計)		目標	実績
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0
		2020	8	1	12.5	8	1
		2021	8	3	37.5	8	3
		計	16	4	25.0	16	4
豊橋技術科学大学、 宇都宮大学、 千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0
		2020	8	8	100.0	8	8
		2021	8	2	25.0	8	2
		計	16	10	62.5	16	10
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0
		2020	2	3	150.0	2	3
		2021	4	2	50.0	4	2
		計	6	5	83.3	6	5
合計			38	19	50.0	38	19

別表2:プログラムごとの受入学生数(2019年度採択)

(単位:人)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	受入人数	
			目標 (計)	実績 (計)		目標	実績
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0
		2020	8	10	125.0	8	10
		2021	8	10	125.0	8	10
		計	16	20	125.0	16	20
豊橋技術科学大学、 宇都宮大学、 千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0
		2020	8	9	112.5	8	9
		2021	8	17	212.5	8	17
		計	16	26	162.5	16	26
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0
		2020	0	0	-	0	0
		2021	14	9	64.3	14	9
		計	14	9	64.3	14	9
合計			46	55	119.6	46	55

別表3: 日-EU共同学位プログラムの構築数(2019年度採択)

(単位:件数)

大学名	事業名	取組年度	合計件数		達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	ジョイント・ディグ リー		ダブル・ディグリー	
			目標 (計)	実績 (計)		目標	達成	目標	達成
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0	0	0
		2020	4	4	100.0	0	0	4	4
		2021	0	0	-	0	0	0	0
		計	4	4	100.0	0	0	4	4
豊橋技術科学大学、 宇都宮大学、 千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0	0	0
		2020	2	2	100.0	0	0	2	2
		2021	2	2	100.0	0	0	2	2
		計	4	4	100.0	0	0	4	4
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0	0	0
		2020	1	1	100.0	0	0	1	1
		2021	1	0	0.0	1	0	0	0
		計	2	1	50.0	1	0	1	1
合計			10	9	90.0	1	0	9	9